

日本人がスポーツ選手に求める理想と現実

Ideal and reality that Japanese requests to sports player

1K03B104-5

杉山 暢哉

指導教員

主査 志士田文明先生

副査 石井昌幸先生

目的

わたしは小さい頃、スポーツ選手とは特別な存在であり、漠然とではあるが普通の人とは何かが違うと感じていた。どのスポーツであろうとそのトップで戦う人たちは、その身体能力など以外にも、人間としても尊敬できる人たちだと思っていた。だが、いつの頃からかスポーツ選手も普通の人であるという認識を感じるようになってきた。同年代の友達に聞いても、同じような感想をもっていた。なぜこのようにスポーツ選手についての印象は変わってしまったのか。そしてもし変わっているのが事実ならば、現代の日本人はスポーツに、スポーツ選手に対してどうあることを求めているのだろうか。

以上の問題意識から、以下の2点を目的とした。

(1) スポーツ選手へ求める理想がどのように変容しているかについて文献により調べる。

(2) 現代の日本人はスポーツ選手にどんな理想を求めている、その理想と現実はどのような違いがあるのかを明らかにする。

方法

本研究は文献研究である。

目的(1)についてはスポーツ選手の指針として戦後教育に組み込まれた日本のスポーツマンシップについて調べる。そして次は比較対象として戦後から現代の間、日本のメジャースポーツである野球の全盛期の時代、その野球のスター選手を3人例にあげ、彼らの共通点、相違点の比較から当時のスポーツ選手に求める理想を考察する。最後に現代におけるさまざまなスポーツのスター選手を例にあげ、同じように共通点、相違点の比較から現代のスポーツ選手に求める理想を考察する。現代は、メディアの発達により野球以外のスポーツも人気があるので、参考とするスポーツもさまざまなものにした。3つの時代の違いから日本人がスポーツ選手に求める理想がどのように変容したかを考察する。

目的(2)については、目的(1)で考察した現代の日本人がスポーツ選手に求める理想をもとに、現実の一般的なスポーツ選手の例を出すことで、理想と現実の違いを明らかにする。

考察

多くの日本人選手が海外で活躍するようになった

ことと、ワールドカップなどで他国を相手に戦うことで、日本人にナショナリズムが芽生え始め、結果として他国をライバル視するようになり、海外で良い成績を残せることがスポーツ選手に求める理想のひとつとなった。そして、斎藤佑樹や石川遼と亀田三兄弟との比較にみる人間性の違い、片方は「王子」とよばれ、育ちの良さそうな好青年のイメージで、片方はハングリー精神と不良少年の成り上がりのイメージがあった。だが、日本人に求められたのは、「王子」というイメージにみられる2人の特徴であった。それが、爽やかさ、礼儀正しさ、謙虚さ、律儀さといった周りの人を尊重する態度であり、それが現代で日本人に求められた人間性であった。

結果

(1) スポーツ選手へ求める理想は、どのように変容しているか調べる

スポーツ選手へ求める理想は、戦後最初は、教育によりスポーツマンシップを基礎とした明るく健康な、正々堂々と全力を尽くす選手を理想と定めたのだが、野球の全盛期、1960年代にはエンターテインメント性の強い、観客を楽しませる人物が理想となっていた。そして現代では、エンターテインメントを求めるのは当たり前で、海外でも活躍できる実力と、スポーツマンシップの本来の意味、周りの人を尊重できる、礼儀正しく、謙虚で紳士的であることが求められる傾向にある。

(2) 現代の日本人はスポーツ選手にどんな理想を求めている、その理想と現実はどのような違いがあるのかを明らかにする。

海外で活躍して成績を残せる実力や、エンターテインメント性も持ち合わせスポーツを楽しみせてくれる、そして本来の意味のスポーツマンシップ、周りを尊重する紳士的な態度の人物が理想であるが、現実にはエンターテインメント性はスポーツの生存競争からどの選手も頑張っているが、海外で活躍出来る選手は一握りであり、本来の意味でのスポーツマンシップを持っているような紳士的な人物はほとんど存在しない。だからこそ、若くて才能のある選手は、そういった理想の選手になるように大きな期待を受けるようになる。